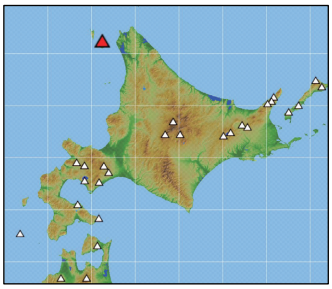
11. 利尻山（りしりざん） Rishirizan

北緯45° 10′ 43″　東経141° 14′ 31″　標高1,721m　(利尻山)(標高点)



利尻山全景　南南東側のオタドマリ沼から　2011年10月19日　気象庁撮影

概要

利尻山は、北海道北部の稚内西方30kmの日本海上に位置する。18km×16kmの利尻島の大部分を構成し、噴出物は海面下80mまで達する。利尻山は20万年前頃に活動を開始し、噴出物の性質、噴出率を変化させながら、約4万年前までに主要な火山体を形成させた(初期、最盛期活動)。その後、複数の火口から活動し、総噴出物量の1割程度の少量の噴出物を放出したが、北海道北部まで火山灰を降下させる主要な活動は、約8000年前以降は発生していない。構成岩石のSiO_2量は49.1～72.8 wt.%である。

写真

南麓のマールと火砕丘　東側上空から　2007年8月24日　気象庁撮影

地形図

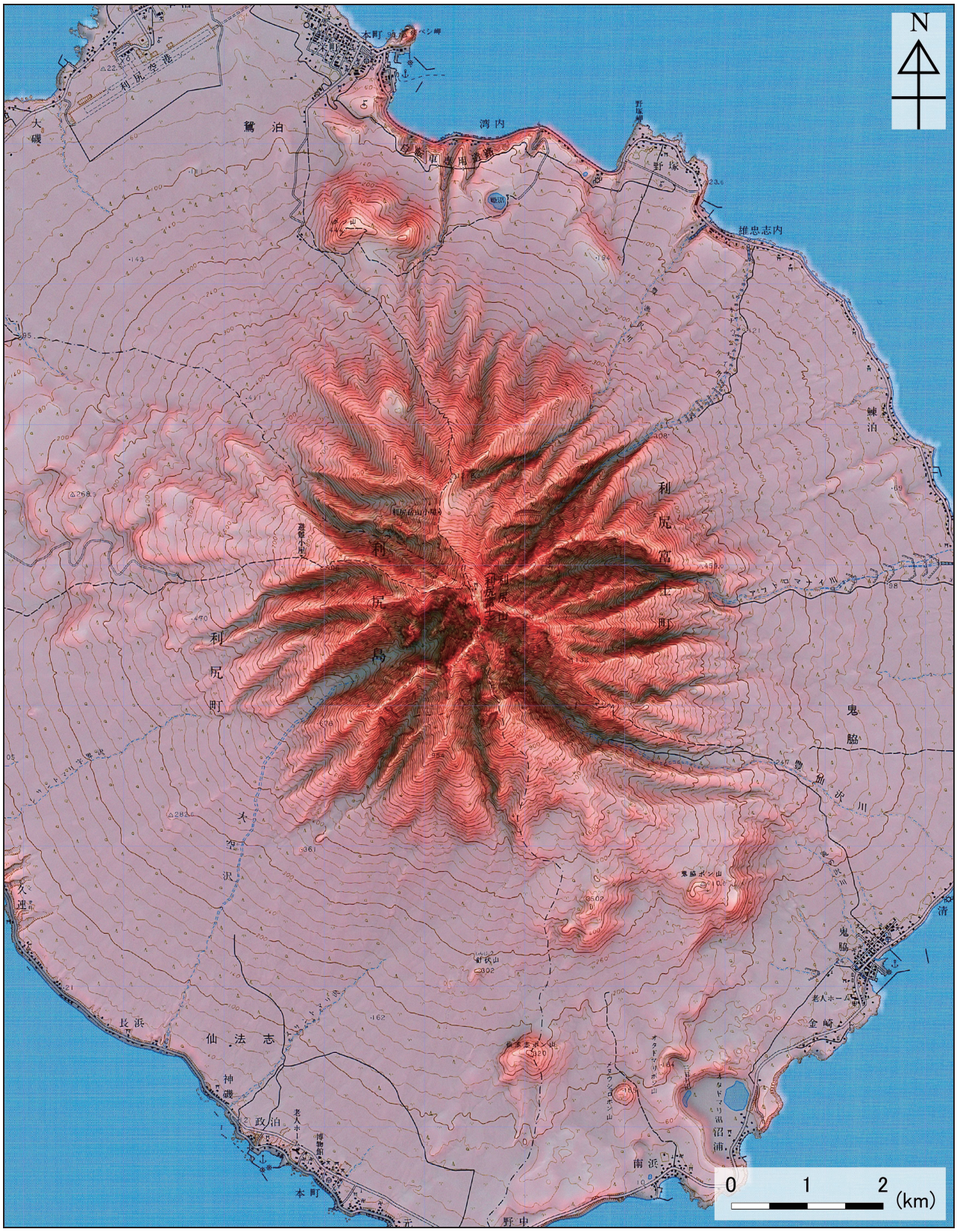


図 11-1　利尻山の地形
国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図（利尻島）及び数値地図 50m メッシュ（標高）

噴火活動史

・過去１万年間の噴火活動

利尻山の最後の噴火は、玄武岩質マグマからなるマールの形成および小規模なスコリア丘群の形成とそれに伴う溶岩流の流出であり、南山麓で起こった。このうち最新のマールは数千年前(4000 年前頃の可能性)に、小規模なスコリア丘群は土壌の厚さなどから、2000～8000 年前以前に形成されたと推定されている。現在では、噴気活動を含め一切の火山活動を示す兆候は認められていない(石塚,1999：近藤･他,2012)。

噴火年代	噴火場所	噴火様式	主な現象・マグマ噴出量
7.9←→2ka[1]	南山麓[1]	マグマ噴火[1]	溶岩流、火砕物降下。マグマ噴出量 0.001DREkm^3 (溶岩流のみ)[1]
7.9←→2ka[1]	南山麓(メヌウショロポン山)[1]	マグマ噴火[1]	溶岩流、火砕物降下。マグマ噴出量 0.003DREkm^3 (溶岩流のみ)[1]

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)を参考とした。なお、年代は暦年代で示す。表中の「ka」は「1000 年前」を意味し、西暦 2000 年を 0 ka として示した。
A←→B：A 年から B 年までの間のどこかで起こった噴火イベント

・有史以降の火山活動

有史以降、記録に残る火山活動はない。

【引用文献】
1. 石塚吉浩 (1999) 北海道北部, 利尻火山の形成史, 火山, **44**, 1, 23-40.

主な火山活動

・8000 年前以前の噴火

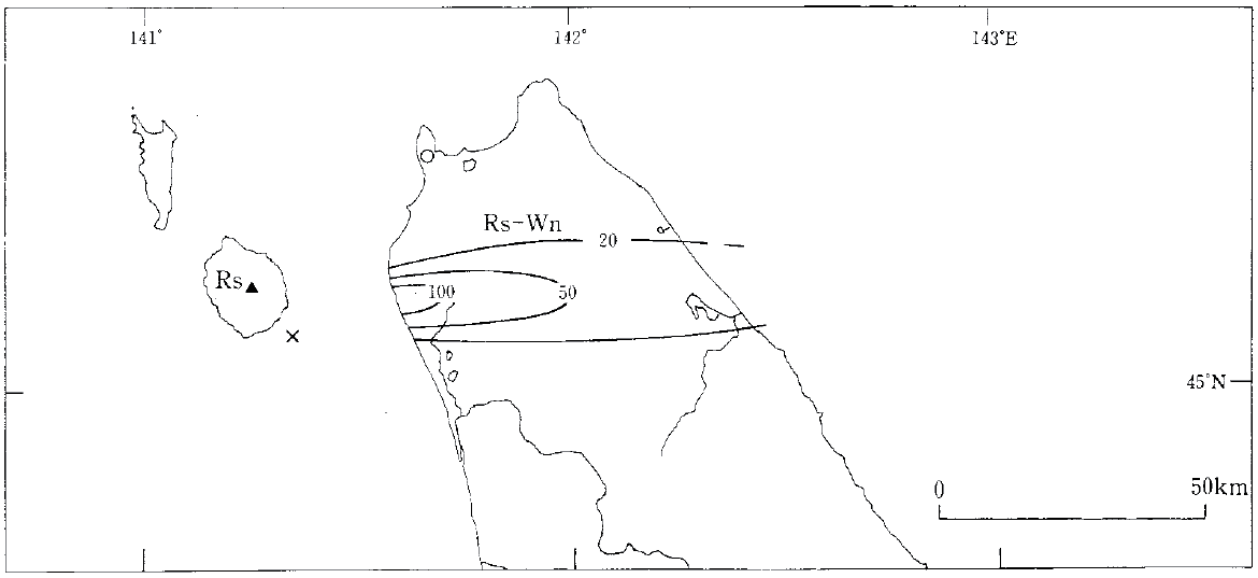


図 11-2　テフラの等層厚線図(町田・新井,2003)
Rs-Wn：利尻ワンコの沢　Rs：利尻　×印は，等層厚線図から推定される給源

近年の火山活動
・地震活動

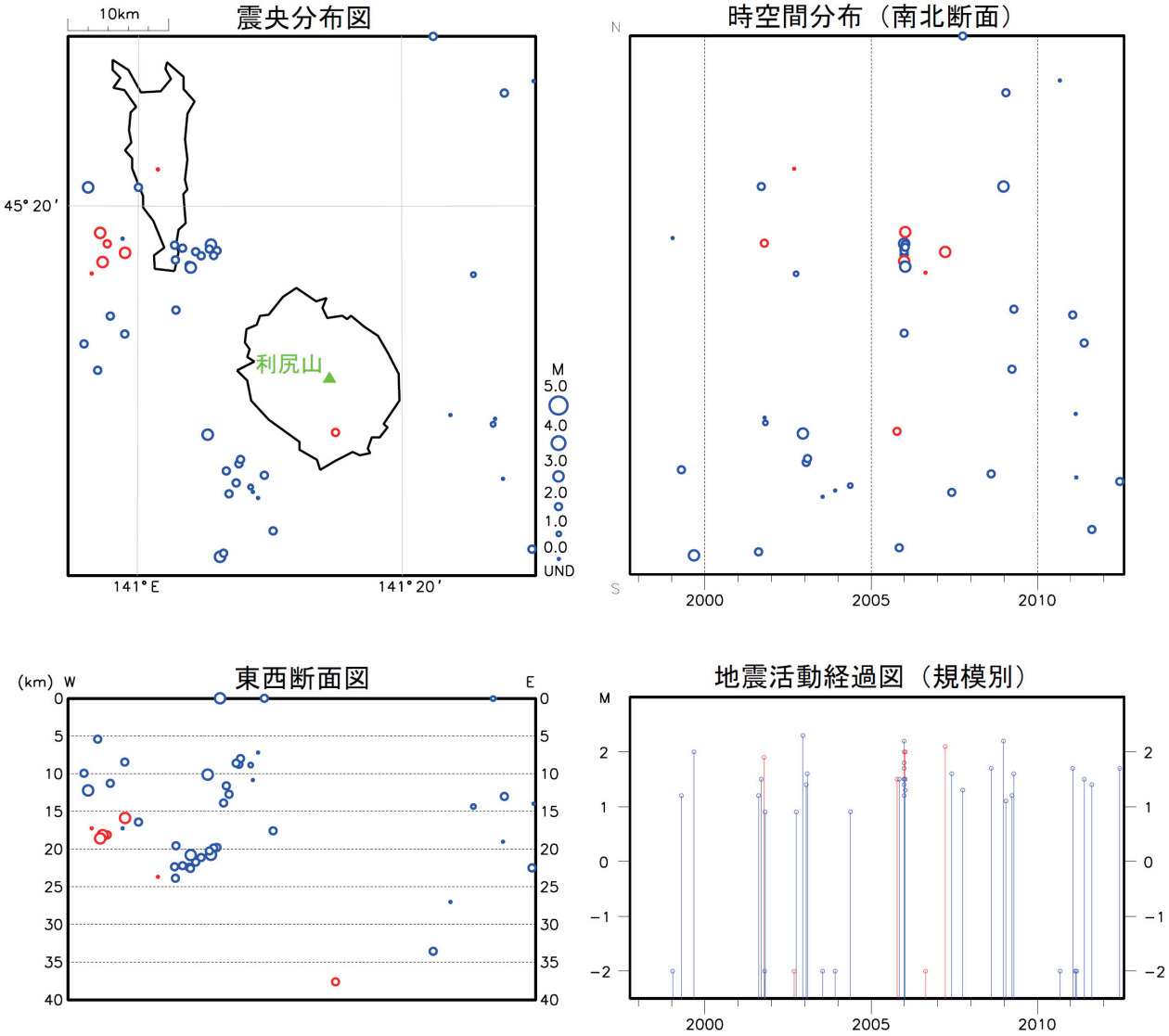


図 11-3　広域地震観測網による浅部の地震活動（青）及び深部低周波地震活動（赤）
（1997 年 10 月～2012 年 6 月 30 日）

防災に関する情報

①火山防災協議会

なし

②火山ハザードマップ等

なし

③避難実績及び入山規制等の実績

・避難状況

なし

・登山規制の状況

現在、鴛泊（おしどまり）コース及び沓形（くつかた）コース以外は立ち入り禁止

社会条件等

①人口

・利尻島の人口：5,294 人（平成 23 年 10 月 31 日現在の統計による）

利尻町の人口：2,413 人　　利尻富士町の人口：2,881 人

②国立・国定公園・登山者数等

・利尻礼文サロベツ国立公園

利尻島年間観光客数：約 170,000 人

（宗谷管内市町村観光入込客数調査結果 平成 22 年度（北海道宗谷総合振興局））

・利尻礼文サロベツ国立公園 利尻山

年間登山者数：約 10,000 人

（稚内自然保護官事務所（利尻事務室） 平成 20 年度）

③付近の公共機関

機関・部署名	所在地	電話番号
利尻町役場	利尻郡利尻町沓形字緑町	0163-84-2345
利尻町役場　仙法志支所	利尻郡利尻町仙法志字本町	0163-85-1011
利尻富士町役場	利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野	0163-82-1111
利尻富士町役場　鬼脇支所	利尻郡利尻富士町鬼脇字鬼脇	0163-83-1001

④主要交通網

・ハートランドフェリー（稚内間 1 日 2～4 便、礼文島間　1 日 1～4 便）

・北海道エアシステム（丘珠空港 1 日 1 往復）

・道道 105 号線、道道 108 号線

⑤関連施設

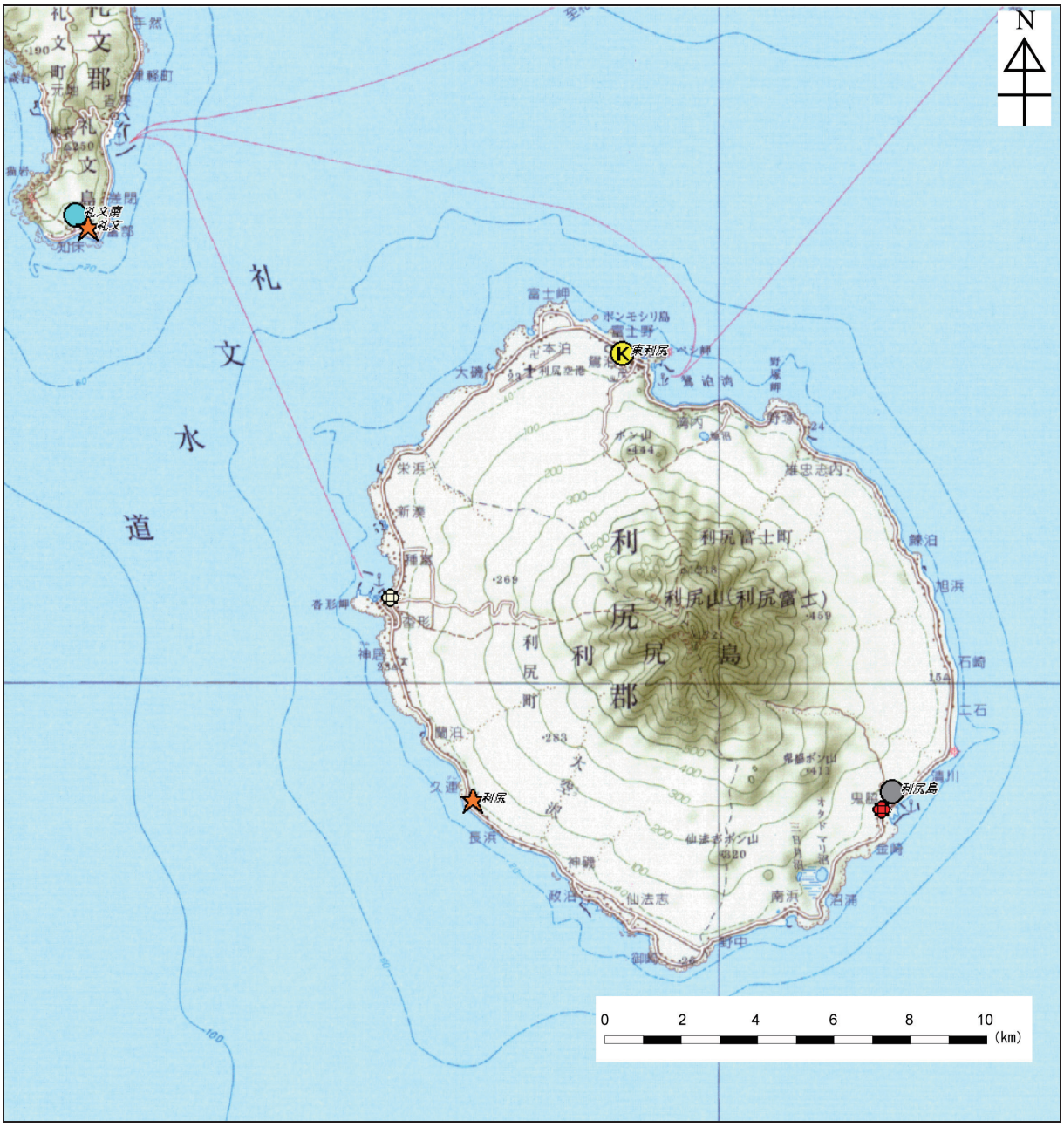
なし

関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
札幌火山監視・情報センター	（札幌管区気象台）札幌市中央区北 2 条西 18 丁目 2	011-611-2421
稚内地方気象台	稚内市開運 2 丁目 2 番 1 号　稚内港湾合同庁舎	0162-23-6016

気象庁および大学等関係機関の観測網

広域　※ 同一地点に複数の計器を設置している場合には、観測点の位置を●で示し、その周囲に設置している観測点の種類を示している。



国土地理院発行の 20 万分の 1 地勢図(天塩)

凡　例

(気象庁)	(国土地理院)	(北海道大学)
震度計	GPS	地震計(短周期)
地震計(短周期)(地震津波観測)	(防災科学技術研究所)	(自治体)
	K-NET	震度計

図 11-4　利尻山　観測点位置図(広域)

引用文献

石塚吉浩 (1999) 北海道北部，利尻火山の形成史，火山，**44**，1，23-40.

近藤玲介・他 (2012) 北海道北部，利尻火山，南浜湿原の成立過程．2012 年日本地理学会春季学術大会要旨集，№81，p245.

町田　洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺，東京大学出版会，360p.